MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．８．２８　発行元
第 509 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ジョルジュ・シムノン『ベスト表』(再掲)

『メグレ警視シリーズ』でよく知られたジョルジュ・シムノンの『ベスト表』を再度取り上げておこう。私にとっては、フランス作家（正式にはベルギー生まれだけれども…）の中では一番好きな作家だと言える。

『メグレ警視シリーズ』が一番

シムノンは多作家で、『メグレ警視シリーズ』以外の作品も実際は沢山あるのだが、私は『メグレ警視もの』が一番だと思っている。右の『ベスト表』で『メグレもの』でないのは『リコ兄弟』のみ。「犯罪小説」系統の作り、犯罪に巻き込まれていく人物の描写は私の好みではない。

『ベスト表』の上位に来ているのは創元推理文庫版で読んだ初期作品が多い。その後に続いているのは河出書房新社から出た『メグレ警視シリーズ全５０巻』に含まれている作品がほとんど。

下に取り上げた『サン・フォリアン寺院の首吊人』と『怪盗レトン』は珍しく角川文庫から出た本。シムノンの作品はゆっくりながらも新訳が出てきているようなので、若い人たちにも是非読んでほしい。

『サン・フォリアン寺院の首吊人』

１９３０年の作。シリーズの第三作に当たる。私の手元にあるのは角川文庫版の１９７６年の再版。この本は初版が１９５７年で、訳者が水谷準なのだ。（水谷準は戦前から活躍していた探偵小説作家）　メグレ警部は「メーグレ」と表記してあるように非常に古々しい文体。最近になってハヤカワ・ミステリ文庫から新訳が出て話題になっていたようである。

メグレが別の用事でベルギーのブリュッセルを訪れた時、とあるカフェでみすぼらしい若者と隣り合わせになった。観察していると、男は三万フランの大金を数え、その後郵便局でパリに送る手続きをとった。そして、鞄を買った後駅に行き、アムステルダム行きの汽車に乗った。犯罪の匂いを感じたメグレが何気なく後を付けてみると、今度はドイツのブレーメン行きに乗り換えた。途中でメグレが鞄を入れ替えてみたところ、男は木賃宿に入った。鞄が入れ替わったことに気付き、あちこち探し回るのだが、とうとうピストルを取り出し、自殺してしまった。責任を感じたメグレは事件の背景を調査し始めるのだった。

『怪盗レトン』

１９２９年の作。メグレ・シリーズの第一作になる。私の手元にあるのは１９７８年の角川文庫初版。こちらは稲葉明雄の訳である。この本の新訳は出ていないようである。

メグレ主任警部の元に電報が届いた。詐欺などを行う国際犯罪組織の首領ピートル・ル・レトンがオランダから列車「北極星号」の五番車両のＧ２６３号室に乗り込んだという連絡である。レトンの人相は三十二歳前後、身長一六九センチ、鼻梁は直線で…耳の輪郭に特徴あり…。メグレはホームに出て待つ。特徴の合った人物が降りてくるのだが…。その時、乗務員が二等車で死体を発見したと伝えてきた。メグレが行ってみるとレトンの特徴を備えた男が殺されていた。降りてきたレトンと死体となったレトン…。メグレはマジェスティック・ホテルに行き、生きているレトンの方を観察し始める。裏に隠された意外な真相とは？

《ジョルジュ・シムノンベスト表》

１．男の首
２．黄色い犬
３．メグレと殺人者たち
４．モンマルトルのメグレ
５．メグレと運河の殺人
６．メグレと口の固い証人
７．怪盗レトン
８．ゲー・ムーランの踊り子
９．霧の港のメグレ
１０．メグレと宝石泥棒
１１．メグレと深夜の十字路
１２．メグレの途中下車
１３．サン・フォリアン寺院の首吊人
１４．メグレと火曜の朝の訪問者
１５．三文酒場
１６．メグレと幽霊
１７．メグレ氏ニューヨークへ行く
１８．メグレと若い女の死
１９．メグレと首なし死体
２０．メグレ夫人と公園の女
２１．港の酒場で
２２．メグレと優雅な泥棒
２３．メグレと死体刑事
２４．メグレと死者の影
２５．メグレの初捜査
２６．メグレのバカンス
２７．メグレと政府高官
２８．メグレと生死不明の男
２９．リコ兄弟
３０．メグレの回想録
３１．メグレと殺された容疑者
３２．メグレと老婦人
３３．メグレ保安官になる
３４．メグレと消えた死体
３５．メグレ推理を楽しむ
３６．メグレの幼な友達
３７．メグレ式捜査法
３８．メグレを射った男
３９．メグレ再出馬
４０．メグレたてつく
４１．メグレと録音マニア
４２．メグレと殺人予告状
４３．メグレ間違う
４４．メグレとベンチの男
４５．メグレと寝取られた男
４６．メグレと老外交官の死